

前回検討会（第1回 平成28年5月20日）における 主な意見

【1. 医療計画の課題について】

（1）二次医療圏と基準病床数制度について

- 医療計画がより実質的なものになるため、地域の医療資源や人口の変化に応じて、二次医療圏の統合や分割がより柔軟に行えるようにすべき。

（2）5疾病・5事業及び在宅医療について

- 救急医療に関しては、在宅や施設の高齢者の軽症から中等症の救急に対して、地域包括ケアシステムを構成し、かかりつけ機能を持つ中小病院・有床診療所の入院機能をより活用する必要がある。さらに、その外側で二次医療圏の最後のとりでとなる全ての重症から中等症の救急を受け入れる高度急性期や急性期群に特化した大病院という2段階の整備が必要。
- 医師ひとりの負担を考えると、在宅診療を担う医療者のネットワーク化が必要。
- 5疾病について、これを5つに分ける必要はあるのか、肺炎は5疾病に入れなくて良いのか。5疾病で取り上げる重点項目の意味を明確にすべき。
- 精神疾患について、精神病床は病床機能報告に入っていない。基準病床数制度に基づく病床の確保は県単位であり、他の医療とは背景状況が異なるが、医療計画での二次医療圏での必要量や提供体制の議論と整合性がとれるか心配。

（3）PDCAサイクルを推進するための指標について

- 指標自体が目標になっている。どのような計画を作り書き込むかが重要。
- 指標について、指標となる数値を解析・分析する人材の育成が重要。指標を絞り込む作業と人材育成はセットで取り組む必要がある。
- 指標について、病床機能報告も利用すること、さらに医療の質の評価指標を病床機能報告にも入れ、医療計画の指標として活用することを含めて検討してはどうか。
- 指標による数値目標の押しつけにならないようにしてほしい。

(4) 地域医療構想の位置付けと実現に向けた対応について

- 必要病床数と基準病床数の相違を整理してほしい。
- 地域医療構想は、地域医療構想調整会議で議論が行われるなど、より現場に基づいたということで、第7次医療計画で医療計画を策定していくときには、地域医療構想が柱になる。二次医療圏と構想区域は一本化すべき。

(5) より効率的な医療提供体制の構築について

- 医療資源の配置については2段階で考えて、CT・MRIなど広く普及し単価も低いものは現状を維持し、計画配置はもっと高額なもので行うのはどうか。
- 医療資源の有効活用は、我が国の人口が減少していくことと合わせて議論してほしい。
- 医療資源の配置については、海外との比較も示してほしい。

(6) 医療・介護の連携の推進に向けた対応について

- 我が国の医療体制にとって看取りは大切で、在宅医療等での看取りを含めた広い意味で看取りの機能を持たせる視点が必要。医療と介護の境界領域での訪問看護の体制整備が必要。
- 在宅医療と介護の連携は、どこかがコーディネートしないとうまくいかない。
- 在宅医療を取り巻く状況は変化しているので、指標も大きく見直す必要があるのではないか。訪問看護についても詳細に指標としてとりあげてはどうか。
- 医療計画と介護保険事業（支援）計画との整合性とすみ分けを行うべき。医療の範囲を決め、それ以外を全部介護や在宅に託しても、介護や在宅は受けきれないのではないか。
- 地域包括ケアを考えていくとすれば、介護圏との協調ということが重要になる点で、医療の圏域と介護圏域（老人福祉計画の圏域）の不一致についての整理が必要。
- 訪問介護が重要になる中で、介護に必要な看護師は市町村が必要と思う数の積み上げになっている一方で、訪問看護師の需要が医療の方で推計される。これらの考え方の整理も必要。

- 高齢者の医療を考える時、退院困難が一番の課題。住宅施策も合わせて考える必要がある。

(7) 医療従事者の養成・確保について

- 医療従事者の確保について、圏域毎に必要な数を示し、医療計画に盛り込むにあたっては、十分な根拠を示してほしい。
- 地域の中で、例えば在宅を担う薬剤師の数とか薬局の数も、医療計画の議論で抜けないようにしてほしい。

(8) その他の事項

- 医療計画に、どれぐらいの、どういう立場の人の、どれぐらいの意見を取り入れられているかということの検証がされていない。住民への情報提供の方法の見直しは、医療計画の課題である。
- 地域の住民が必要な医療をきちんと受けられるための計画なはずなのに、計画をつくるための計画になってしまっていて、少しも住民のためになっていないのではないか。
- 医療計画を策定するに際しては、保険者協議会の意見を聞くこととしているため、都道府県における医療計画の策定等に係る会議には、保険者協議会も入ると考える。

【2. 今後の進め方について】

- ワーキンググループでの議論が、本検討会の構成員もしっかりと関わる形で行われるようにしてほしい。
- 今、医療と介護は連携から協働になってきている。これらを踏まえたワーキンググループにしないといけない。